DEC 2013, №4

日本創造学会

JCSNEWSLETTER

第35回日本創造学会研究大会を終えて

「ひと・もの・ことが創りだす思草 －創造的支援 －」 実行委員長 澁谷貞子

澁谷実行委員長

創造学会会員による研究発表

特別講演：高田佳子氏による「笑いヨガ」

看護学生交流集会

日本創造学会第35回研究大会は、10月26日、27日開催予定でした。しかし、台風27号の接近・上陸の予報により中止か開催かで実行委員会は紛糾、結局、理事各位によるメール会議の結果を考慮し、1日目の予定を中止という決断を下しました。その結果、1日目の基調講演、シンポジウムは急遽中止となりました。1日目の基調講演予定であった村田沙耶香氏、シンポジストのNPO法人川越蔵の会の代表理事原知之氏、NPO法人ほのぼの研究所の代表理事大武美保子氏は、どなたも最後まで開催の可能性を信じて準備して下さいました。当大学の看護学科長小山英子氏も多忙の中、最後まで創造性について考えをめぐらし、原稿の見直しをして下さいました。シンポジストの皆様には、今後の大学行事や創造学会の研究会での講師をお願いするということをお伝えし、中止を決断しました。初日の中止という事態は、創造学会始まって以来の事でした。自然の猛威にはなすすべもなく、参加者の安全を守るという、主催者の危機管理における責任から、中止せざるを得ませんでした。

10月27日(日)は台風一過の晴天に恵まれ、研究発表グループはABC3会場に分かれて、予定通りの発表と活発な質疑応答がなされました。この研究大会の特徴は、創造性をキーワードに、あらゆる側面からの切り口で研究発表がされるという点で意義のある大会です。企業・教育・社会科学的立場等から、机上的論文よりは、実践的な論文の方が多い。実践から帰納的に創造性を考えて深めていくなど、実に多種多様です。

2日目の特別講演「笑いヨガ」は日本笑いヨガ協会代表の高田佳子氏により、予定通り実施されました。「笑いヨガ」では、午前中の研究発表の頭脳労働を休め、リフレッシュすることができました。参加者は当初、笑いについても真剣にとらえようと向き合っているように見え、高田氏も最初はやりにくそうでしたが、さすが、笑いの健康体操の第一人者の実践スキルに、参加者の心もほぐされ笑の渦になって行きました。

当日、研究大会での初めての試みである看護学生による交流集会を実施しました。参加者は教員、学生含めて23名でした。企画、実施は評議員である佐藤道子氏と当大学棟久恭子氏が担当しました。浜松専門学校の学生によるラベルワークの実践紹介と、順天堂大学保健看護大学の石塚淳子氏による発表を聞き、意見交換をしました。開校2年目の当大学の学生は2年生までしかいないので、他校の学生の発表内容に驚き、今後の学習の動機づけになりました。学部の学生に発表の機会をつくり、創造技法を体験できるワークショップの場を提供するなど、新しい試みとしてこの取り組みは大いに注目できることです。会場が研究発表会場と離れた棟であったことと、時間が重複していたことから、会員の出入りがほとんどできなかったのが少し残念でした。(次頁に続く)

今大会の準備において際立ったことは、日本医療科学大学に8人の正会員がいたということです。7月に正式な実行委員会を発足し、大会運営マニュアルを作成し、組織図・各自の役割を決めました。中でも弁当の係や、懇親会の係は細部にわたって計画を詰めました。大会までの間、各自が自分の役割を主体的に進めました。広報活動では、地元のミニコミ誌の『広報さかど』と広報掲示板を活用しました。この協力体制には、深く感謝しています。全体で振り返ってみれば、創造学会事務局を含め、まさに女子力パワー全開でした。

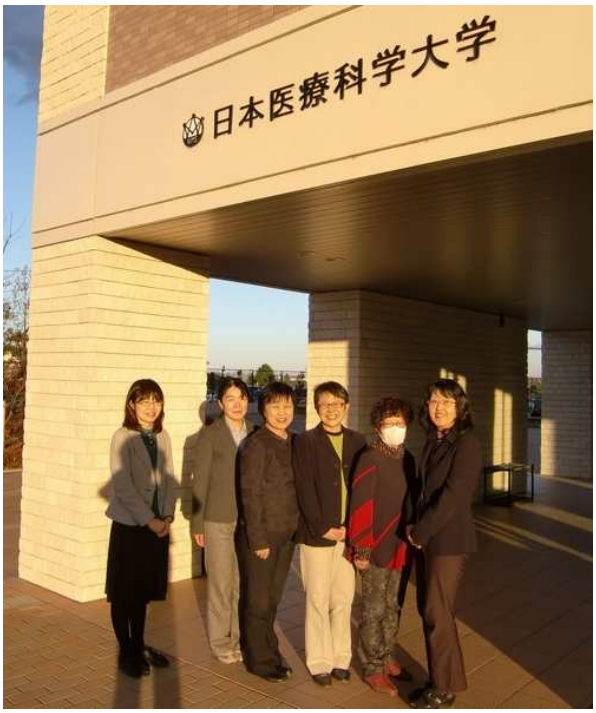
さらに日本医療科学大学は、会場確保、機器の使用に際して全面的にバックアップしてくれました。ただ1つ、台風接近という自然だけが、味方をしてくれませんでした。

今大会の参加者は、首都圏での開催の大会としては会員52名、非会員19名、計71名のコンパクトな大会となりました。

1日目の中止により、テーマに掲げた思草(しぐさ)がそれほどアピールできたとは思えませんでしたが、運営において様々なしぐさと協力、結果が見えた部分がありました。今後においても創造学会のより一層の発展と、繁栄を心に刻んだ機会でも有りました。

改めて、講演予定であった村田様、シンポジスト予定であった原様、大武様、小山様そして大会に参加して下さった全ての皆様に感謝申し上げます。

最後に、実行委員の皆様の尽力に再度感謝を致します。ご協力ありがとうございました。



第35回研究大会実行委員会の皆さん

学会賞授賞式

10月27日研究大会総会会場にて、学会賞を受賞された方の表彰式が執り行われました。

2012年度論文誌Vol.16
論文賞　麻生陽平氏
共著者:白坂成功、保井俊之、前野隆司（敬称略）
論文タイトル:
2×2欲求マトリクス　ー心理的価値に基づく利他的コンセプト創出法ー

2012年論文誌Vol.16
論文賞　樋口健夫氏
共著者:由井薗隆也、宮田一乗（敬称略）
論文タイトル
TTCT創造性テストによるアイデアマラソン研修の創造性開発効果の分析

第4回日本創造学会著作賞
受賞者　兼田麗子氏
著作タイトル:
戦後復興と大原總一郎　国産合成繊維ビニロンにかけて

第34回研究大会発表賞
受賞者　麻生陽平氏
発表タイトル:
2×2欲求マトリクス　ー心理的価値に基づく利他的コンセプト創出法ー

2013年度第35回研究大会発表賞

2013年12月の学会賞委員会にて第35回研究大会発表賞が決定し下記の方が受賞されました。

発表賞(正会員):富田欣和
所　属:慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科
発表テーマ:「システム×デザイン思考」を用いた創造性教育手法
-高等教育および中等教育への適用事例-

■■第28回創造性研究会報告■■

研究会テーマ:
「CSVと日本における経済・倫理両立の系譜」

講　師:日本創造学会会員　兼田麗子
早稲田大学日本地域文化研究所客員准教授

2013年12月7日、近畿大学東京事務所セミナールームにて第28回創造性研究会が開催された。
企業の社会的責任を示すCSR（Corporate Social Responsibility）は、やがてISOを中心により広義なSR（Social Responsibility）あるいはSRI(Social Responsibility Investment)へと論点が変遷した。その後、より社会との関わりが具体的なCSV(Creating Shared Value)いわゆる”共通価値の創造”がマイケル・ポーターにより提唱され、キリンホールディングスはいち早く”CSV本部”を組織化した。それ以前にキリンホールディングスは、飲酒運転撲滅という社会貢献と、事業を共有させた商品「キリンフリー」を開発し、業績を上昇させるという経験を有していた。
しかし、省みるにCSVは日本では古来から行われており、感謝・事業・報恩が一元的に実践されてきたのが日本の伝統的経営であった。今こそ、その商文化を再確認し、世界に示す時であると考える。豪商（長者）を中心に町作りし、商業都市にした大阪商人、浄土真宗の他利の心で良質・安価商品と全国的情報網を構築した近江商人、そして「人の氣」を観て顧客と一円融合した伊勢商人などにより日本の近世経済は発達した。現在の三越の祖三井高利は、故郷の伊勢から出発し、江戸、京、大阪でも奉公人を擁して商を手広く展開した。三井は、掛売りなしの現金商売、卸制度など合理的アイデアで増収を図るも、正直・真面目主義で健全経営を貫いた。富山の置き薬も世界に誇る情報ネットを構築しつつ「信用取引」という一線を守った健全経営で栄えた。ライオン歯磨きの創業者の小林富次郎は、歯磨き粉などヒット商品を生んだが、キリスト教に大きく裏打ちされた慈善心を経営哲学のベースに置き、慈善券付き歯磨き粉を売り出して、売り上げの一部を慈善事業に回した。
大原孫三郎は「得た利益で社会貢献をすべき」との使命感から、倉敷紡績の経営に手腕を発揮する一方で、労働者保護にも心を砕き、上下の差別なく共に働く一円融合経営を実践、飯場改善、寄宿舎改善のみならず、教育、習い事環境も整備した。三つの科学研究所である大原社会問題研究所、大原奨農会農業研究所、倉敷労働科学研究所は近代日本の労働行政に大きな影響を及ぼした。
聴講者からは、慈善に寄与するための収益構造について、あるいは、拝金社会の現在、誠実経営はいまこそ必要と考えるが啓蒙する手だてはあるかなどの質問が相次いだ。司会者補足として、大原孫三郎の手を離れた大原社研を一時支援した、日産の創業者でもある鮎川義介の天道経営を今に伝える鮎川義塾（http://www.ayukawagijuku.com/)が、日産グローバル傘下で活動を開始している旨報告した。　（報告：田村新吾任命理事）

会員の書籍紹介

著作名:「問題解決」と「課題実現」のため知識から知恵を創りだす方法
2013年10月発行　316頁
著　　者:江崎通彦　価格　￥3780

企画立案、起業、経営改善など、すべての問題や課題に対応が可能で、その解決と実現に向けて確実で具体的な「手順」を見つけだすことができます。著者の江崎通彦氏はこの本を出版されると共に、NPO法人を立ち上げられました。KJ法、MN法を含みそれに続く、日本のオリジナルの創造的管理法です。内容等の詳細は、ホームページhttp://wisdom-net.jp/を御覧ください。

国際会議参加報告

KICSS2013に参加して

理事：樋口健夫

ポーランドの美しい町クラコウ市で2013年11月7日から9日まで開かれたKICSS2013（Knowledge Information Creativity Support Systems: 知識情報創造性支援学会）に参加しました。

日本創造学会からは、國藤理事、由井薗会員、古川会員、そして私樋口が参加しました。

KICSS2013はこれで8回目になりますが、今回初めてアジア・オセアニア以外のヨーロッパにて開催されました。そのおかげで、ポーランド、米国、英国、ドイツ、デンマーク、タイ、中国、日本など多くの国々からの参加者があり、國藤理事の基調講演、古川会員、そして私を含めて、多数の発表ごとに活発な質問と議論が出ました。

この学会の特徴は、毎年ですが、日本からの参加者が積極的に発言し質問したことです。大いに参考になりました。

驚いたことがいくつかあります。

一つは、学会の食事の素晴らしかったことです。晩餐会の開かれたレストランは、ポーランドでもっとも有名なレストランで、昔、国王が食事をされたという場所を、学会が借り切って、華麗なる音楽のもとに、素晴らしい食事を楽しんだことです。これには感激しました。

もう一つは、世界で最初の世界遺産として登録されたというクラコウ近郊の巨大な岩塩の鉱山で、9日の3日目の学会が開かれたということです。地下に総延長400キロもの岩塩の鉱山は、その中に、大きなビルが建てられるほどの広大な空間がいくつもできていて、数時間の地底探検の後、岩塩鉱のホール（地下200メートル）で、KICSS2013の最終日3日目が開かれたことです。岩塩が、電飾で輝いていました。地下200メートルにも、Wi-Fiが通じていたことも驚きましたが、そこにもちゃんとしたレストランがあり、フルコースの昼食が出ました。

昔のポーランド王国の首都であったクラコウの町は、美しく、市内を縦横無尽に市電が走っていて、中央にお城がそびえていたのが印象的でした。

学会のスケジュールがすべて終わったあと、クラコウ交響楽団のコンサートで、ショスタコービッチの交響曲第一番を聞くことができました。

来年のKICSS2014は、11月6日から8日まで、キプロスの美しいリゾートホテルで開催されます。楽しみにしています。会員の皆さんも、ぜひともご参加ください。

《関連ニュース 》

樋口健夫理事が、2013年11月20日に、ジョージア大学（The University of Georgia）の教育学部のトーランス創造性・才能開発センター（Torrance Center for Creativity and Talent Development）の顧問グループのメンバーに選出されました。任期は3年間です。

同センターは、米国で開発されたもっとも有名な創造性テストのトーランス創造性思考テスト（通称TTCT）の世界のネットワークを拡げており、日本では、樋口健夫理事が所長をしているアイデアマラソン研究所が、すでに800件以上のTTCT図形テストを、研究所、企業、大学、幼稚園にて実施して、成果を上げていることを高く評価したことからの任命です。TTCT図形テストは2種類ありますが、幼稚園から一般社会人、研究者まで同じ図形テストを行うことです。（事務局記）

2014年創造性関連主要国際会議情報

理事長：徐　方啓

2014年に開催される主要な創造性関連の国際会議を紹介致します。
参加希望の方の海外の主催者への連絡は、それぞれご自身にて直接お願い致します。また、これらの会議の内容、予定は、変更、順延、キャンセルもありえますので、自身の責任において内容のチェック、確認、費用の支払いを行い、ご出席ください。

2月6－7日　第2回国際イノベーションとアントプレナーシップ会議　開催地：タイ
主催：バンコク大学東南アジア知識とイノベーション研究所
http://academic-conference.icie/icie2014/icie14-home.htm

2月22－23日　創造教育シンポジウム　開催地：インド・Chiplun市
主催：フィンランド創造教育協議会　http://www.ccefinland.org/#!symposium/c1064

3月6－7日　イノベーション、インスピレーションと創造性会議　開催地：英国・マンチェスター市
主催: I2C2グループ、ハダースフィールド大学共催　http://i2c2conference.org/

4月9－13日　第12回国際創造性とイノベーション会議　開催地：イタリア・Sestri Levante
主催：イタリア創造性協会CREA　http://www.creaconference.com

6月4－7日　EURAM2014：イノベーションのための創造性会議　開催地：スペイン・バレンシア市
主催：ヨーロッパマネジメントアカデミ　http://employeeinnovation.wordpress.com/2013/09/24/organizing-creativity-for-innovation-euram-2014-call-for-papers/

6月5－6日　第7回国際アントプレナーシップ、イノベーションと地域開発会議　開催地：キプロス・ニコシア市
主催：キプロス大学　https://iceird2014.cs.ucy.ac.cy/index.php

6月8－11日　第13回ヨーロッパ創造性とイノベーション会議　開催地：アイルランド・ダブリン市
主催：ヨーロッパ創造性とイノベーション協会（EACI）
http://www.eaci.net/EACI/EACI_-_European_Association_for_Creativity_and_Innovation.html

6月18－22日　第60回創造的問題解決講習会（CPSI）　開催地：米国ニューヨーク州バッファロー市
主催：アメリカ創造教育財団（CEF）　http://www.cpsiconference.com

7月7－10日　第11回教育現代化会議：創造性とイノベーションへの挑戦　開催地：フランス
主催：パリデカルト大学国際教育イノベーションセンター　会費：400ユーロ　http://www.paris.icieconference.net/

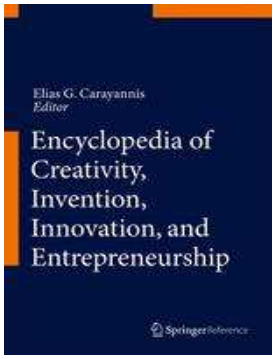
7月22－25日　国際知識、イノベーションと企業会議開催地：ラトビア・リガ市
主催：国際知識、イノベーションと企業協会http://www.kiecon.org/

8月12－14日　組織のイノベーション国際会議（2014　ICOI フイリピン）　開催地：フィリピン・マニ市デラサレ大学
主催：インターナショナル組織のイノベーション協会　http://www.iaoiusa.org/2014icoi/

9月12－13　ACAワールド会議：Creativity in Action　開催地：米国・フィラデルフィア、ドレクセル大学
主催：アメリカ創造学会　http://www.aca.cloverpad.org/

10月14－17日　第20回南アフリカ国際創造性会議開催地：南アフリカ共和国・Bele-Bela
主催：南アフリカ創造性財団　http://www.acreconference.co.za/Acrehome.aspx

書籍紹介



2013年6月27日、エリアス・G・カラヤンニスが編集した『創造性、発明、イノベーションとアントプレナーシップ百科事典』は、世界の大手出版社であるシュプリンガー（本社はドイツ）から上梓された。この本は企画から出版まで、丸2年間かかった。世界各国から募った289人は、274項目を執筆し、この本の出版に貢献した。
編集者のカラヤンニスは、アメリカジョージ・ワシントン大学ビジネススクール情報システムとテクノロジーマネジメント学部教授で、英語、フランス語、ドイツ語、ギリシャ語を話せ、スペイン語も通じる語学の達人なので、情報収集力とコミュニケーション力が抜群である。
カラヤンニスの下には、4人のサブ編集者がいる。創造性担当編集者は、ロシアのアルタイ州立大学教授のイゴール・デュビナ教授である。同氏は本学会32回研究大会で口頭発表したことがある。これがきっかけになり、本学会から3名の会員が関連項目をそれぞれ執筆した。
それは、「創造的経営」（pp.317-321、徐方啓）、「アイディアマラソン」（pp.871-873、樋口健夫）、「知識から知恵を創造する方法」（pp.1267-1272、江崎通彦）である。
しかし、2024ページもあるこの本は、高額で、アマゾンでの販売価格は11万8453円で、なかなか入手できない。幸いにも電子版（eBook）があり（ISBN978-1-4614-3858-8）安く読むことができる。　（徐　方啓）

◆新入会員紹介◆

（個人情報が含まれるため、Web版では削除いたしました）

▼▼▼総会報告▼▼▼

10月27日に開催された総会では 2012年決算・事業報告2013事業活動状況、2014年活動予定、2014年予算案などの項目について理事会より報告・活動指針が提示され、会員の皆様の承認と賛成多数をうけ可決しました。

2012年度　収入

科目	予算額	実績額	備考
前年度繰越金	2,631,157	2,631,157	
会費収入	1,475,500	1,616,580	前年度未回収分 入会金・年会費 退会者納付分合算
その他収入	200,000	203,000	論文掲載料 論文誌販売収入
合計	**4,306,657**	**4,450,737**	①

2014 年度予算

（2014年1月～12月）

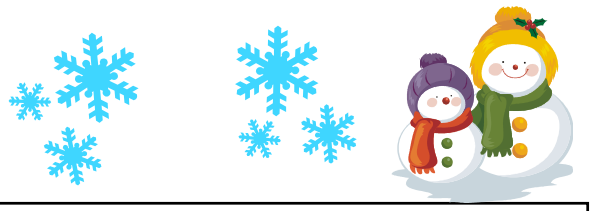
収　入		支　出	
2013年度繰越分（監査未終了概算）	¥2,057,156	大会費	¥500,000
		会議費	¥130,000
		研究会補助費	¥150,000
会費収入　（会員数からの概算）		交通費	¥200,000
内訳		発送費	¥100,000
正会員187人×10000円×70%	¥1,309,000	学会誌	¥350,000
学生会員 11人×5000円×70%	¥38,500	NL作成費	¥250,000
新入会者入会金約15名分 （2000×10、1000×5）	¥25,000	事務局費	¥350,000
		名簿台帳類管理費 （規約、名簿、会費収納簿、ITアドレス等管理）	¥200,000
論文掲載料	¥150,000	ホームページ管理費	¥100,000
著者買取料	¥50,000	事務所設備費 （光熱費、PC回線使用料、OA機器使用保守費等）	¥120,000
		学会賞準備費	¥60,000
		電話使用料	¥30,000
		予備費	¥1,089,656
	¥3,629,656		¥3,629,656

※予算収入欄の2013年度からの繰越額は年度途中のため概算です。
2014年度会費収入については2013年現時点での会員数に基づいた概算です。
2014年度論文掲載料・買取料については2012年度実績に基づいた概算です。

2012年度　支出

科目	予算額	実績額	備考
大会費	500,000	381,669	118,331
会議費	130,000	82,005	47,995
研究会補助費	200,000	86,620	113,380
交通費	200,000	125,510	74,490
発送費	130,000	70,290	59,710
学会誌	350,000	321,955	28,045
ニューズレター	250,000	234,000	16,000
事務局費	350,000	339,223	10,777
名簿規約管理費	200,000	157,700	42,300
HP管理費	100,000	29,000	71,000
事務所設備費	120,000	120,000	0
学会賞準備費	60,000	9,500	50,500
電話使用料	30,000	18,117	11,883
予備費	105,500	38,492	67,008
支出合計	**2,725,500**	**2,014,081**	②

	収入額 ①	支出額 ②	繰越額（①－②）
収支	**4,450,737**	**2,014,081**	**2,436,656**



事務局メッセージ

台風の接近で年次大会1日目が中止となったことは大変残念な事でした。半年に渡り準備をしてきた関係者の皆様のご苦労を思うと胸が痛みます。しかし、多くの皆様のご協力により２日目のプログラムを無事終了できたことに感謝するとともに、初めて直面した主催者としての危機管理の重要さを貴重な経験とともに再認識することが出来ました。

（事務局：比嘉）

日本創造学会 ニューズレター
2013年12月発行（№4）
日本創造学会事務局
発行人 ：徐方啓
編集担当：比嘉由佳里
〒272-0015 千葉県市川市鬼高4-7-816
Tel 080－3465－6152
Fax 047－314－6380
e-mail: jcs-info@japancreativity.jp
http://www.japancreativity.jp/